

入試方式	科 目	学 部	学 科	分野・コース
面接・小論文方式	小論文	家政学部	児童学科	—
受験番号	氏 名			採 点

次の文章を読んで問いに答えなさい。

共有型しつけで育った子どもと強制型しつけ*で育った子どもはどんな大人になるであろうか。乳幼児期のしつけは成人期での社会的成功にまで影響するか。この疑問を解くため、東京都内で23歳～28歳までの成人の息子や娘を2、3人育てた家庭2,000世帯を抽出して、親は子どもが乳幼児期～児童期に何に配慮して子育てしたか、ウェブ調査を実施した。

受験偏差値68以上の難関大学・学部を卒業して難関試験（司法試験や国家公務員試験、調査官試験、医師国家試験など）を突破した息子・娘をもつ親は、「子どもと一緒に遊び、子どもの趣味や好きなことに集中して取り組ませた」と答えた。また、絵本の読み聞かせも十分に行っていたことも明らかになった。また、親はどのように子どもに接していたかを尋ねると、子どもとの触れ合いを大切にし、親子で楽しい経験を共有する「共有型しつけ」をした親が多かった。以上から、子どもの学力格差の原因は経済格差ではなく大人の養育や保育の仕方が媒介要因であると結論づけられる。子どもの主体性を大事にする育て方や保育の仕方が子どもの自律的思考力や拡散的思考力（PISA**型学力基盤力）、学習意欲を育てる鍵となるのである。家庭では共有型しつけで親子の会話を豊かにし、保育現場（幼稚園も保育所も）では「子ども中心の保育」で、子どもの自発的な遊びを保証したいものである。

内田伸子「子どもの貧困と学力格差—貧困は超えられるか？」一部抜粋（学術の動向2017.10）

** 強制型しつけ … 子どもを親の思い通りに育てようとする権威主義的なしつけ

** PISA … Programme for International Student Assessment の略

15歳児を対象に OECD（経済協力開発機構）が実施する国際的な学習到達度調査

- 問1
- 上記の文章から、乳幼児期から児童期にかけてどのような環境で育つことが、将来につながると読み取れますか。150字以上200字以内に要約して答えなさい。
- 問2
- あなたの幼児期から児童期を振り返り、親などの身近な大人との関わりや、保育・教育環境における遊びが、今の自分にどのように影響していると思いますか。具体的なエピソードを挙げながら800字程度で答えなさい。

2024年度 共立女子大学 総合型選抜 解答用紙

No. 2

入試方式	科 目	学 部	学 科	分野・コース	
面接・小論文方式	小論文	家政学部	児童学科	—	
受験番号		氏 名			採 点

問 1

[illegible]

▲200字

$$(30 \times 7)$$

問2

[illegible]

 (30×29)